

1 経緯

災害時の電源確保及び避難所機能強化のため、環境省の二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(再生可能エネルギー等導入推進基金事業)を活用して、18か所の避難所へ太陽光発電設備+大型蓄電池を導入した。事業期間は平成26年度から28年度、事業総額は7億円である。また、各避難所の運営委員会と協力し、災害時の運営体制を整備した。

2 検討状況（専門委員会）

年度. 回	日付	協議事項
H26. 第1回	H26. 9. 22	選定基準・選定方法について
H26. 第2回	H26. 10. 24	避難所運営委員会との連携、選定基準の修正について
H26. 第3回	H27. 3. 18	進捗報告、H27年度事業実施場所の検討、総括書について
H27. 第1回	H27. 6. 26	進捗報告、民間の補助事業、H28年度事業の検討について
H27. 第2回	H27. 11. 25	進捗報告、H28年度事業実施場所の検討について
H28. 第1回	H28. 10. 14	進捗報告、避難所における今後の設備活用の方向性について

3 選定基準

- ①日照等パネル設置条件、②避難所機能等災害対策要件、③市内導入バランス等政策的要件、④事業費 ⇒ 18カ所

4 導入状況

公共施設への導入状況は以下のとおり。(設備写真は資料1のとおり)

区	施設名称	太陽光 (kW)	蓄電池 (kWh)	整備年度
中央	①登戸小	10	15	H27
	②生浜東小	20	15	H27
	③椿森中	10	15	H27
花見川	④柏井小	10	15	H27
	⑤朝日ヶ丘中	10	15	H28
	⑥幕張本郷中	20	15	H28
稲毛	⑦あやめ台小	20	15	H27
	⑧稲丘小	20	15	H27
	⑨柏台小	10	15	H27
若葉	⑩みつわ台南小	20	15	H28
	⑪加曽利中	10	15	H27
	⑫山王中	10	15	H27
緑	⑬小谷小	10	15	H27
	⑭土気中	10	15	H27
	⑮大椎中	10	15	H27
美浜	⑯越智公民館	7.5	10	H28
	⑰磯辺第三小	10	15	H27
	⑱磯辺小	20	15	H27



5 避難所との連携

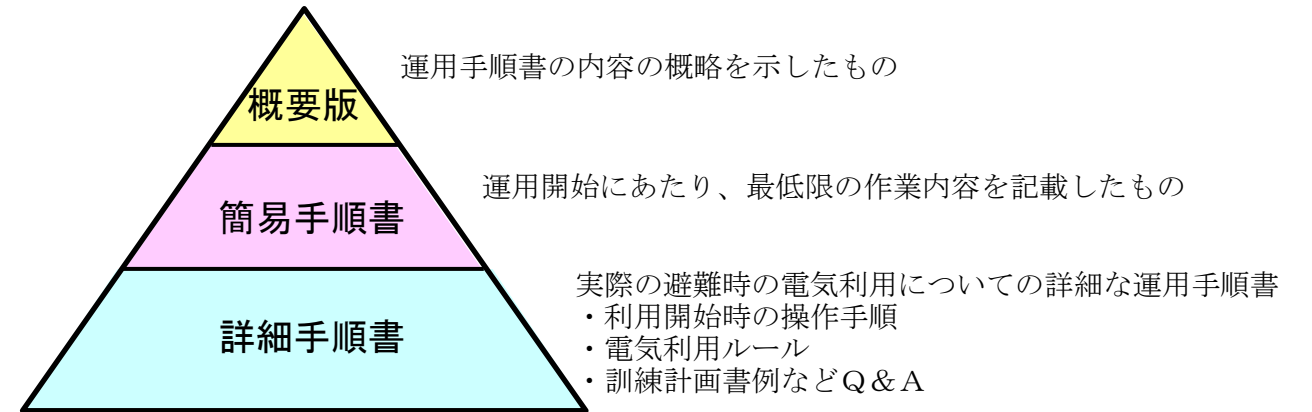
(1) 避難所運営委員会との連携 (2月9日現在) (資料2)

避難所運営委員会と連携して意見交換・訓練を行いながら手順書を作成・調整し、災害時に設備を利用できる体制を構築した。

区	施設名称	意見交換等協議	訓練
中央	①登戸小	○	2月予定
	②生浜東小	○	○
	③椿森中	○	2月予定
花見川	④柏井小	○	○
	⑤朝日ヶ丘中	○	○
	⑥幕張本郷中	○	○
稲毛	⑦あやめ台小	○	○
	⑧稲丘小	○	○
	⑨柏台小	○	○

区	施設名称	意見交換等協議	訓練
若葉	⑩みつわ台南小	○	2月予定
	⑪加曽利中	○	○
	⑫山王中	○	2月予定
緑	⑬小谷小	○	○
	⑭土気中	○	○
	⑮大椎中	○	○
美浜	⑯越智公民館	2月予定	2月予定
	⑰磯辺第三小	○	○
	⑱磯辺小	○	○

(2) 設備利用手順書の構成 (資料3)



6 導入による効果

導入設備及び設備の有効活用による効果 (資料4)

- (1) 導入設備による効果 (年間発電量: 255.9MW/h、年間CO₂削減量: 142 t-CO₂)
- (2) ソフト的な効果 (委員会活動レベル、周知啓発実施率)
 - いずれの項目も目標値以上の効果
- (3) 事業満足度 (再エネ理解度、再エネ効果有無、避難所の機能強化) (アンケートによる)
 - いずれの項目でも60%以上がポジティブな評価

7 今後の取組み

設備の有効活用について、千葉市の先進事例をまとめた当該事業の最終報告書をホームページに公開し、他の自治体が同様な事業を展開できるためのスキームを構築していく。(資料5)